

「新しくて、面白い」を小樽で

株式会社 KOO

ドローンで撮影

若松二丁目、旧岡川薬局向かいの通りに社屋を構える株式会社KOOは、音楽、映像制作、Web・グラフィックデザイン、ドローン空撮、VRコンテンツの企画・制作等を行う会社として昨年1月に創業しました。

「『新しくて、面白い』を小樽で」をコンセプトに、歌手や企業への楽曲提供、テレビコマーシャル用の空撮、ポスター等のデザイン業務、ドローンを利用した歴史的建造物内部の撮影業務等を手掛けています。

社屋のスタジオには、音楽制作のための楽器や録音機材、動画撮影や配信のための機材が揃っています。

中村友（ゆう）社長は、小樽生まれで高校卒業まで小樽で育ちました。

大学で音楽の講師として指揮やピアノを教えていた父親の影響を受け、幼い頃から音楽に親しみ、自然とその道に進むことを意識し始め、大学入学後にDTM（コンピュータを使った音楽制作）と出会い、強い刺激を受け、20歳の頃に作曲家になることを決意しました。その後は、音楽で生計を立てるため、自身が影響を受けたテクノミュージック（電子楽器を中心的に用いた音楽）を中心に、ポップス等、様々な音楽制作の手法を独学で学び、27歳から3年ほ

ど民間企業の音楽事業部でライブステージの音響照明や、CM音楽の制作補助を経験して独立、作曲や、ドローンによる映像撮影を行っていました。

創業の契機となった出来事は、現在の社員で友人の高田将平さんから転職についての相談を受けたことでした。「新たな業務を模索していた頃にWebコンテンツの制作など、自分にはないスキルを持っていた友人と、自分がこれまで取り組んできた音楽や映像にITを組み合わせて勝負したいと思い、一緒にやってみないかと持ちかけ、創業しました」。

小樽での活動

「これまででは東京のお客様との取引が中心でしたが、友人の紹介もあり、少しずつ小樽の企業との取引が増えてきました。今後も株式会社KOOを覚えてもらい、さらに市内企業との取引を増やし、地域に貢献していきたいです。そうでなければ、地元の小樽で創業した意味がありません」。

最近では市内企業の依頼を受け、企業の沿革や従業員が心がける信条・行動指針等を示す「クレド」カードの作成、令和元年度の小樽の観光ポスターや小樽雪花火のポスター、Webサイトのデザインその他、専門学

校の講師も務めています。

「紙媒体、映像、音楽、Webなど、お客様の様々なニーズに応えることができる複合的コンテンツの提供が自社の強みです。現代は多くの人がスマートフォンやタブレットを通じて、お店や商品を探す時代ですが、ホームページの作成方法や、ITのことがよく分からず、効果的なPR活動ができない企業もあるかと思えます。弊社ではそうした悩みに対する解決法を提案できます」。

ドローンの活用

現在ドローンは主に建設現場で活用されており、高層建築物や橋梁など、人が立ち入ることが難しい現場の調査で使われることが多いそうです。

建設以外の用途では、自然環境の調査や、ドローンに熱を感知するセンサーを取り付けて、災害現場で瓦礫の下の生存者の搜索等に利用されています。また、小型のものはマイクドローンと呼ばれ、ドローンの操縦技術を競う大会や、歌手のプロモーションビデオの撮影などに使われます。

中村社長は小樽ドローン協会を立ち上げ、自ら代表としても活動し、子供向けのドローン体験会等を開催

するなど、ドローンの普及啓発にも取り組んでいます。

「小樽は最新のITや、エンターテインメントが少ない地域だと思えます。企業やドローン協会での活動を通じて、世の中にはこんなに面白いものがあるということを小樽の人達に広めていきたいです」。

今後の展望

中村社長は今後の展望について、立体空間を生み出すVRの可能性に着目しています。VRとは、「仮想現実」を意味する言葉で、コンピューターによって作られた仮想的な世界を、現実世界のように体感できる技術のことです。

最近までコンピューターの性能がVRに追い付いていなかったことや、価格の高さから普及が難しかったのですが、少しずつ環境が整ってきているそうです。

VRのゴーグルを着ければ仮想空間上で実際の施設の再現やミーティング、音声の配信ができます。この技術を使えば、離れた地域にいる人同士で仮想空間上の音楽ライブなどが可能になります。

また、歴史的建造物などの内部を360度カメラで撮影し、撮影した映像をVR上で再現することも可能

で、小樽の旧日本郵船小樽支店や、胆振東部地震後の厚真の工事現場の様子は、既に保存され、VR技術を用いた歴史的建造物ツアーの実験や、災害現場の地形把握等に利用されています。

「360度カメラで撮影した複数の画像を組み合わせることで、VR空間を作成することができます。小樽に残る数多くの歴史的建造物の内部をVR空間として保存し、配信することができれば、歴史的建造物の記録や、VR空間上で建物内部を巡るツアーの提供など、小樽の観光振興に貢献できると考えています」。

今回の取材で実際にVRゴーグルの映像を見せてもらいましたが、頭を動かすと建物の中を360度見渡すことができ、コントローラーを操作して実際に扉を開くことができるなど、その技術に驚きました。

「新型コロナウイルスによりイベント関係の撮影が中止になった代わりに、VRや動画配信関係の問い合わせが増えていきます。今年は潮まつりが中止となりましたが、開催が予定されていた日に過去の小樽での空撮映像を公開したいと考えています」と話していました。

技術の進化が激しい中で、「新しく、面白い」表現や創作活動を追求

するチャレンジャー精神が感じられ、今後の活躍が期待されます。



高田さん

中村社長

株式会社 KOO

小樽市若松2丁目8番4号
電話 65-8181
営業時間 10:00~19:00
定休日 日曜日

